

「テントウムシの羽化(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

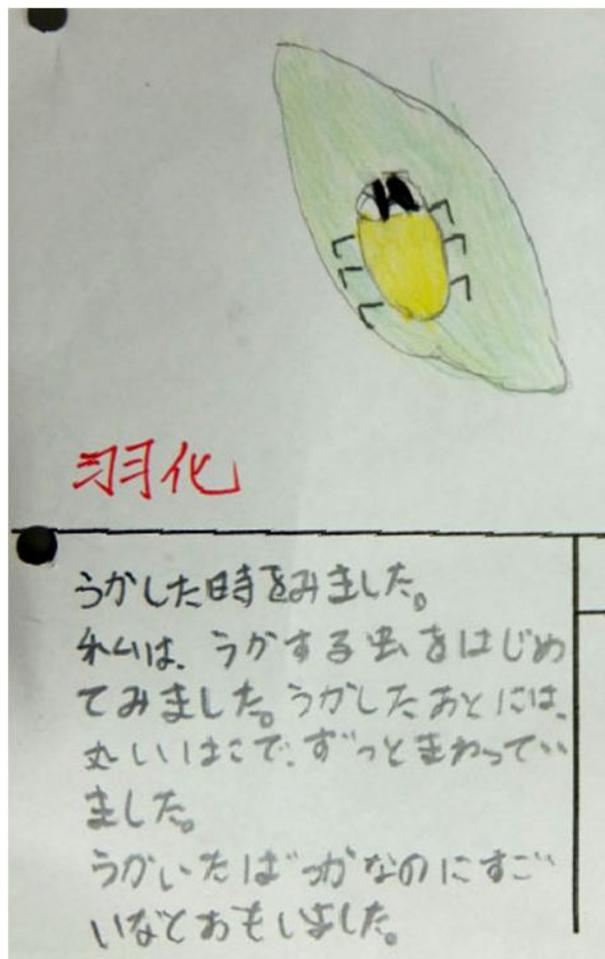
羽化したばかりのテントウムシは、体全体が黄色く、星は一つも見えない。この黄色い部分は、昆虫の体では前翅が硬化したもので、「鞘翅」と呼ばれている。



羽化直後から、鞘翅の下から後翅を出して乾かしながら、盛んに歩き回る。



羽化直後の鞘翅はまだ柔らかく、水分も残している。何かの拍子にひっくり返ると、容器の壁にくっついてしまい、ジタバタするだけで、自力では起き上がれなくなる。テントウムシのような甲虫は、背中側から見たのでは「頭・胸・腹」の見分けが付きにくい。しかし、こうして腹側から見ると、体勢がよくわか。



これはある女兒が、自主的に書いた観察カードである。「昆虫の羽化」という一瞬の現象に初めて出会った驚きが、子どもの言葉で書かれている。



その後、容器の中で半日ほどウロウロしていたテントウムシは、徐々に濃い橙色に変化し、黒い星もくっきりと現れた。まるで現像液の中で写真の現像しているようだった。星の数は19個。「ナミテントウ *Harmonia axyridis* の19星型」とわかった。